曹洞宗総合研究センター
第28回学術大会 プログラム

開催日　令和 8 年 11 月 12 日（木）～13 日（金）
会　場　曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）
第 1 部会　3 階　桜の間
第 2 部会　3 階　蘭の間
第 3 部会　3 階　菊の間

大　会　日　程

1. 開会式　11月12日　9時30分　桜の間
2. 個人研究発表　11月12日　10時～16時40分　桜の間・蘭の間・菊の間
   11月13日　9時～11時40分　蘭の間
3. 近現代教団研究部門公開研究会　11月12日　13時　桜の間
   ◇　性的マイノリティの「生老病死」に寄り添う
   宗教者の在り方について
   ―「無関心」からの脱却と実践的支援の模索―
4. 未来創生研究部門リレー発表　11月12日　14時40分　桜の間
   ◇　宗派を超え、地域と結ぶ「心のセーフティネット」
   ―東日本大震災の支援活動をふりかえり、
   これからの寺院のつながりを考える―
5. 宗学研究部門公開研究会　11月13日　9時　桜の間
   ◇　デジタル仏教学研究の動向と曹洞宗学
   ―宗典データベース・宗典資料蒐集の価値を再考する―

＜第 1 日＞　11 月 12 日（木）

第 1 部会　＜桜の間＞個人発表

午前の部（10 時～11 時 40 分）

1. 邦字新聞に見る鈴木俊隆
   駒澤大学大学院　野底　稔
2. 近世曹洞宗における「天上天下唯我独尊」
   宗学研究部門研究員　久松　彰彦
3. 曹洞宗における「鈸」の使用について
   宗学研究部門研究員　山内　弾正
4.「正法眼蔵拾遺第四」とされる「一枚法語」の基礎的研究
   ―妙昌寺本の歴史的・書誌学的考察―　宗学研究部門副主任　秋津　秀彰
5.「正法眼蔵拾遺第四」とされる「一枚法語」の基礎的研究
   ―妙昌寺本の思想的考察―　センター委託研究員　永井　賢隆

＜第 1 日＞　11 月 12 日（木）

第 1 部会＜桜の間＞

午後の部（13 時～14 時 30 分）

近現代教団研究部門公開研究会
性的マイノリティの「生老病死」に寄り添う
宗教者の在り方について

―「無関心」からの脱却と実践的支援の模索―

登壇者　　NPO 法人パープルハンズ事務局長　永易至文

午後の部（14 時 40 分～16 時 00 分）

未来創生研究部門リレー発表
宗派を超え、地域と結ぶ「心のセーフティネット」

―東日本大震災の支援活動をふりかえり、

これからの寺院のつながりを考える―

1. 東日本大震災の支援活動の経緯、活動の総括
   ―発災後から現地へのアプローチ―　　未来創生研究部門主任　久保田　永俊
2. 他教団との連携
   ―宗派を超えた宗教者ネットワーク―　　センター常任研究員　宇野　全智
3. 浄土真宗本願寺派の震災支援
   ―特に東日本大震災を中心に―　　浄土真宗本願寺派総合研究所研究員　安部　智海
4. 災害時における寺院の役割と今後の展開
   ―地域社会（コミュニティ）の核としての再認識―　　センター委託研究員　長岡　俊成

第 1 部会　＜桜の間＞個人発表

午後の部（16 時 00 分～16 時 40 分）

1．亀田鵬斎『仏説摩訶酒仏妙楽経』の主要典拠は『仏説延命地蔵菩薩経』である

とげぬき地蔵尊高岩寺住職　来馬　明規

2．瑩山禅師と身心脱落

センター副所長　下室　覚道

＜第 1 日＞　11 月 12 日（木）

第 2 部会＜蘭の間＞個人発表

午前の部（10 時～11 時 40 分）

1. 仏光如満とその行状

駒澤大学大学院　大村　雄也

2. 金龍寺所蔵『碧巌抄』の成立背景について
　―室町期石屋派僧侶による禅籍形成の一端―　駒澤大学大学院　龍谷　孝道

3. 近代曹洞禅における創造性とヨーロッパへの展開
　―澤木興道と弟子丸泰仙を中心に―　センター準研究員　輝元　泰文

4.『普勧坐禅儀』における「回光返照」の解釈について

駒澤大学大学院　PEDRETTI FILIPPO

5.『普勧坐禅儀聞解』について

宗学研究部門専門研究員　清藤　久嗣

午後の部（13 時～16 時 40 分）

１．中巌円月と曹洞宗

駒澤大学大学院　鯨岡　　信

２．山田孝道にみる民衆教化の特徴
　―『仏教のすすめ』を中心に―　宗学研究部門研究員　秦　　慧洲

３．道元禅師の三聚浄戒について

宗学研究部門研究員　務臺　宗孝

４．南宋代における浄慈報恩光孝寺の様相

宗学研究部門主任　小早川　浩大

５．「生活仏教論」と現代教化
　―佐々木宏幹先生追悼論文集発刊に因んで―　教化研修部門主任　関水　博道

６．『釈禅波羅蜜次第法門』における無漏禅について

愛知学院大学准教授　大松　久規

７．道元『正法眼蔵』「都機」と仏地房覚晏『一字訣』

駒澤大学准教授　舘　　隆志

８．瑞世考（五）
　―瑞世者と五院の関係―　センター講師　尾崎　正善

９．明州大慈寺の変遷と寒巌義尹

駒澤大学名誉教授　佐藤　秀孝

１０．『典座教訓』に登場する 2 人の中国人典座の食事観について

育英短期大学名誉教授　佐藤　達全

＜第１日＞　11 月 12 日（木）

第３部会　＜菊の間＞個人発表

午前の部（10 時～11 時 40 分）

１．仏教美術を用いた布教教化方法の模索
　―地獄絵図に着目して―　　教化研修部門研修生　保坂　康耀

２．遺族が納得して見送るための葬儀の研究
　―十六条戒の資料配布の試みを中心として―　　教化研修部門研修生　渡邉　泰成

３．近代曹洞宗法話の構成とその機能について
　―『新井石禅全集』収録法話の分析を通して―　　教化研修部門研究生　押見　大俊

４．今後の寺院坐禅会のありかたとは？
　―スピリチュアルブームを焦点に―　　教化研修部門研修生　工藤　康喜

５．専門僧堂におけるセクシュアルマイノリティ対応の現状と課題
　　教化研修部門研修生　奥山　風雅

午後の部（13 時～16 時 40 分）

１．仏乗慈僊の生涯（２）
　―『仏乗慈僊和尚行実』および諸絵画をもとにして―
　　曹洞宗文化財調査委員会主事　伊藤　良久

２．吉峰寺文書の整理と紹介
　―主要史料の紹介を中心に―　　永平寺学術事業推進室主任調査研究員　長谷川　幸一

３．台湾仏教の音声美学が仏教教育にもたらす示唆
　　臨済宗信願庵住職　釋　　地湛

４．禅的「調い」考
　―マインドフルネス瞑想との「調い」観点の違い―　　zafu 代表　藤井　隆英

５．新井石禅禅師の渡布と渡米（３）
　―別院における授戒会を中心に―　　教化研修部門副主任　南原　一貴

６．過疎地域における寺院の後継者問題
　　龍源寺住職　國分　敏英

７．クラウドファンディングを活用した布教教化の可能性（３）
　―防災をテーマにした事例を中心に―　　センター講師　横山　俊顕

８．宗教者養成教育における宗派間交流の意義
　―花園禅塾・竹友寮学生交流の事例―
　　臨済宗妙心寺派花園禅塾塾頭・教学研究委員会委員　桐野　祥陽

９．長蘆宗賾『慈覚禅師語録』における「学般若菩薩」について
　　駒沢女子大学准教授　山本　元隆

１０．葬儀の危機を「判る流葬儀」と「洞門法式」の普及で克服する
　　龍潭寺住職　別府　良孝

＜第２日＞　11 月 13 日（金）

第１部会＜桜の間＞

午前の部（９時～１１時）

宗学研究部門公開研究会

デジタル仏教学研究の動向と曹洞宗学

―宗典データベース・宗典資料蒐集の価値を再考する―

事業報告　宗学研究部門

講　　演　早稲田大学教授・日本学術会議会員　師　茂樹

第２部会　＜蘭の間＞個人発表

午前の部（9 時～11 時 40 分）

１．フェミニズムの視点からみた曹洞宗門の中の女性たち

女性と仏教・関東ネットワーク 瀬野　美佐

２．労働か？奉仕か？―労働組合を設立してみて

―Is Religious Service” Just Unpaid Labor? ―　日本脱カルト協会　宮城（内山）温子

３．曹洞宗「寺族のまなび」二十二年の軌跡

―法縁の広がり―　青岸寺寺族　永島　慧子

４．葬送の現在と未来に関する私見

センター常任研究員　新井　一光

５．信心銘の論理的構成の考察

城満寺住職　田村　航也

６．明治三十七年発行『宗教家大会彙報：時局に対する宗教家の態度』について

―日露戦争下における各宗派の思想を考える―　センター講師　宮地　清彦

７．批判仏教への応答の一試論

センター客員研究員　菅原　研州

８．三条教則教導の周辺

―後年の「戦時教説」への影響―　センター委託研究員　佐藤　俊晃

※プログラムは変更になる場合があります。

学術大会における機材使用について

プロジェクター等機材の使用にあたっては、以下の事項に従って下さい。

※事前に申し込みされた方以外の機材の使用はお断りいたします。

①パソコン用プロジェクターの使用について

・パソコンは、各自ご持参下さい。

・会場で使用するパソコン用プロジェクターは、HDMI 方式にのみ対応しています。VGA,DVI,DP,USB-C などの接続方式には対応していません。



HDMI

・HDMI を搭載していないパソコン（MAC・iPad・Surface など）を持参する場合は、変換ケーブル・ドック等を自身で準備の上、ご持参下さい。

・パソコンを持参することが出来ない方は、事前にセンター事務局にご相談ください。

※ ただし、当日のお申し出には対応できかねます。

②その他機器の使用について

OHP、音響機器、ビデオ機器等は会場に設置されておりませんので、ご了承ください。尚、これらの機器について持込使用を希望される方は、発表日の 1 週間前までに、総合研究センター事務局まで電話またはメールにてご連絡ください。

個人研究発表要項

1. 発表時間〔発表15分〕〔質疑応答5分〕を厳守してください。

2. 発表予定時間の40分前（プログラム2番前）までに受付を済ませ、発表会場にお入りください。

3. 配布資料は、各自30部以上ご用意下さい。会場でのコピーはお受けできません。

4. プロジェクター等の使用は、事前申込をされた方に限ります。

5. 発表内容と直接関係のない物事の宣伝行為は禁止とします。

6. 生成 AI を用いて作成した文章・画像などを使用する場合は、著作権に十分配慮するとともに、該当部分全てに出典を明示し、自身の意見・発言と明確に区別できるようにして下さい。

7. 当日、発表時間に間に合わない場合や、発表を取りやめる場合は、速やかに総合研究センター事務局までお電話下さい。

8. その他の発表に関するお問い合わせ、ご連絡は、総合研究センター事務局へ電話またはメールにてお願いします。